

あいらの歴史と物語

発行責任者 始良歴史ボランティア協会

会長 竹之下 洲一

編集者 広報部 玉利 良一

連絡先：〒899-5421 鹿児島県始良市東餅田 498 始良市歴史民俗資料館 0995 (65) 1553

歩き・み・ふれる歴史の道 in 加治木



—西郷どんが歩いた龍門司坂—

竹之下 洲一

始良市は文化庁主唱の「歩き・み・ふれる歴史の道」事業に取り組み、毎年史跡めぐりを実施してきました。本年度は5月19日に今話題の龍門司坂を中心にしたコースで、約30名の参加がありました。龍門司坂は、寛永12年(1635)私領である加治木島津家が創設されてまもなく、溝辺や加治木領であった竹子地区を結ぶ大口筋の一部として造られました。現在でも加治木町高井田から小山田の毛上集落まで、全長約500mの石畳の山道として残っています。敷石工事は18世紀の中、加治木島津家4代当主久門の時、近くの樋ノ迫石を切り出して行われたようです。

交易の町として繁栄した加治木は、中世以来人や物・情報・技術が行き交い、この坂を多くの人々が往来しました。明治10年(1877)2月西南の役の時も、加治木に集結した西郷軍6000名ともいわれる兵士が、大勢の人々に見送られ、熊本方面を目指しこの龍門司坂を登っていきました。

明治22~23年(1889~1890)ごろ、坂の東側に県道が造られ、明治34年(1901)に鉄道が敷設されると、龍門司坂は幹線としての機能を終えることになりました。

明治初めごろまでの生活の道を、杉木立と木洩れ日の中、風情を楽しみながら、当時の人々の往来に思いをはせ、歴史の道として歩いた一日でした。現在、大河ドラマ「西郷どん」オープニング映像で話題の龍門司坂には、多くの観光客が訪れ、苔むした石畳の苔ははがれ、「決意の杉」の木肌は多くの人々の手で摩滅しています。

ガイド実践研修

「加治木と西郷さん」

宮内伸一



2月に実施した研修部主催のガイド実践研修は、「加治木と西郷さん」をテーマに加治木の西

郷さんと関わりのある史跡を巡りました。

加治木は、私学校の分校が最初にできたところであり、郷土館には南洲直筆の「敬天愛人」の縦書きの額が残されています。また、西南の役では、薩軍の半数の部隊が龍門司坂を登り、熊本に向かったところでもあります。なお、西南の役を終盤には1年間、加治木島津屋形の御対面所に仮県庁がおかれ(現在の柁城小学校プール付近)、時の岩村通俊県令が、ここから西南の役終結の電報を熊本県令宛てに打電しました。

当時を偲ぶものは、現在県庁跡の石碑と西南の役招魂碑だけです。当時の様子を調べていくと、加治木には西郷さんや西南の役だけでなく、斉彬の集成館事業や戊辰戦争など、明治維新に関わりが深い史跡が数多く残っていることがわかります。

今回は、その一部を巡りましたが、明治維新150年という節目の年でもあり、より多くの史跡を皆さんへ紹介していきたいと思えます。

島津屋形の御対面所



森山家住宅

永山 はるか

森山家は、江戸時代から明治時代にかけて鑄物業で繁栄した加治木の豪商です。森山家に残された古文書には安政元年(1854)に亡くなった森山伊助が「加治木鍋屋元祖」と書かれ、鑄物業の創始者といえます。伊助の長男伊兵衛は天保年間(1831~1845)に奄美群島での御用鍋の製造・販売の許可を得ており、藩の財政を支えた黒糖生産に関与していたと考えられます。また、文久元年(1861)には町奉行から集成館での大砲鑄造の功績に対して褒賞を受けています。

森山家住宅は加治木町朝日町に所在し、主屋と土蔵は明治37年(1904)に建てられ、旧作業場は、島津斉彬が嘉永4年(1851)に興した第1期集成館の建物を移設したものと伝えられています。この主屋・土蔵・旧作業場の建物は、それぞれ国登録有形文化財となっています。



薬医門



土蔵

旧作業場内



貝化石新発見!!

松下 澄行



始良市春花集落の蒲生川右岸から貝化石の層が、川の護岸工事に伴い見つかりました。川面より約2mの低所に帯状に広がっています。

出土した貝化石は、オオノガイが圧倒的に多く、それ以外にはカガミガイ、巻き貝のイノボヘタナリ、イセシラナミと推定される二枚貝などが見つかりました。他に数少ないものとしてはハマグリなどもあり、多種類に及びます。



このような貝類の組成から当時この場所の環境は干潟から浅い海と推定され、この辺り^{あたり}は海であったことがわかります。

約8,000年前に爆発した、米丸マールから吹き出た火山噴出物が流れ出て、この海成層(*)の上に堆積していることから、発見された貝化石を含む層は、9,000~10,000前の年代(縄文時代早期)ではと予想されます。護岸工事が完了し、今では見る事が出来なくなりました。

(*)海成層⇒堆積物が海洋底に堆積してできた地層。

桃木野石の採石場跡

竹之内 茂

加治木で切り出した石は「加治木石」と呼ばれ、藩政期に城壁造りや墓石などに使用されて、大きな



な需要がありました。加治木で採れた石は場所により特徴が異なり、採石場のある地名にちなんで石の名を呼んでいました。

その中で、西別府^{ももきの}桃木野周辺の山の中で産出された「桃木野石」と呼ばれた石は、白石と呼ばれた他の加治木石とは違って、硬質で黒味を帯びており、彫り易く^{みが}研けばツルツルになり、石碑や田の神像・墓石などに使用されました。

昭和40年代にコンクリートブロックが普及すると、採石場は山林内に放置されたままとりました。

上の写真はそれぞれの地域の採掘洞跡の現状です。どちらも大規模な黒石の採掘場でしたが、今ではその所在を知る人も少なくなっていました。時代の流れを感じます。



右の写真は、桃木野石で作られた代表的な石像「木田の田の神」で、明和4年(1767)に製作されています。



歴民館への期待とは？

歴史民俗資料館館長 下鶴 弘



4月1日付をもちまして、歴史民俗資料館の館長に就任しましたことをここにご報告いたします。皆さんのご協力をいただきながら、さらなる歴民館の発展に尽力してゆく覚悟です。

さて、大河ドラマ「西郷どん」の放映に伴い、県内各地ではドラマのロケ地巡礼が始まっているようです。始良市内でも5月の連休には沢山の観光客が「掛橋坂」や「龍門司坂」を訪れました。

歴民館には、市内の地形模型が展示してあり、観光客の求めに応じた公共施設の所在地を確認することができます。また、各種パンフレット類も備えており、閉庁日における市役所の代わりを十分務めています。

これからは館内の展示案内はもちろん、お客様のご要望に応じて、史跡めぐりの目的地やコースの相談などにも歴史ボランティア協会の皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

平成29年度歴史ガイド実績概要

- 5月 岩剣城登山ガイド 46名参加
- 6月 入来地区視察 15名参加
- 9月 関東鹿児島県人会案内 70名参加
- 9月 あやめ学級案内 40名参加
- 9月 JT南九州支社白銀坂ガイド 75名参加
- 10月 蘭牟田地区研修 13名参加
- 11月 木田用水沿線ガイド 31名参加
- 2月 加治木西郷関連ガイド 21名参加

*上記は、昨年度実施した、研修やガイドのほんの一部です。ご希望の場合は、始良市歴史民俗資料館(☎0995-65-1553)まで、お気軽にお問い合わせください。

平成30年入会にあたり

新園 淳一郎

昨年、歴史ものが好きと言うだけで、歴史ボランティア養成講座に参加し、始良市各地域の歴史を細部にわたり、勉強させていただきました。

「こんな難しい内容では」続かないと思ったものの、後の祭りです。「スタートしたからには」と一念発起いちおんぱつきです。

多くを学ぶ中で、①身近に多くの史跡があり、②各時代の出来事が今も形を変えて息づいていると感じた事でした。

この2つの想いを、ボランティア活動を通じて多くの皆様に伝えられたらと思っています。



編集後記

大河ドラマ「西郷どん」の撮影が始良市内各所で行われ、新しい名所ができたりしていますが、市教育社会教育課文化財係によって、「始良市文化財ガイドブック(加治木地区)」が作成されました。加治木地区の歴史的な行事や史跡などにご興味をお持ちの方にとっては、必携のものと思えます。お問合せは、始良市歴史民俗資料館(☎0995-65-1553)までお願いします。

今後(帖佐・重富地区)を今年度、(蒲生・山田地区)を来年度に発行する予定で、歴史ボランティア協会も、ご協力させていただいています。

因みに、今年は明治維新150年、西南の役140年でしたが、来年は島津義弘公没後400年にあたり、平成の年号が改元されることとなっていることはご承知のことと思えます。